

講演会 「高等教育機関とFD活動」の報告

学術教養センター 菊沢正裕

日時 2008年11月7日(金) 16時50分から18時30分
会場 福井高専 一般教育棟1階 大講義室
講師 田中每実氏 (京都大学高等教育研究開発推進センター長)

- (1) 大学のユニバーサル化とグローバル化
 - ・ユニバーサル化は、大学全入時代の基礎的学力保証 (普遍化)
 - ・グローバル化は、国際水準の学力保証 (高度化)
 - ・ユニバーサル化とグローバル化が進むなか、高等教育をとりまく基本状況が変化
 - ・具体的な課題のありようが、機関によって個別化、多様化しており、ローカリズムを尊重しつつ各機関が最適解を見出すことが重要
- (2) FDの類型化
 - ・4つの型に類型化、とくに啓蒙型 (イベント的・制度的) と相互研修型 (日常的・自己組織化型) について比較しながら解説
- (3) FDの今日的な基本課題
 - ・日常的教育改善の努力が重要であり、努力を促進する手立てを講ずることが重要
 - ・個別の機関では十分な手立てができないことが多いが、個別機関同士の努力を効率的に補完することができる地域間連携が有効。相互研修型FDを推進している京大の例を紹介。
- (4) 高等教育研究開発推進センターによる教育改革
 - ・ローカリズムの尊重、啓蒙ではなく共同の連携、研修の自己組織化の援助
 - ・センター独自のFD活動:
 - 授業公開・参観による授業改善
 - ネットワーク化による情報の共有 (大学授業ネットワークプロジェクト)
 - 研究成果の公開と交流
- (5) 工学部との協働によるFD支援システム
 - ・授業評価の実施によるカリキュラムの改善
 - ・卒業研究調査
 - ・公開授業による相互研修
 - ・遠隔授業

のそれぞれを支援するシステム。得られた知見を共有化する。このFD支援システムをさらに成熟化していくことが重要。
- (6) 授業改善・FDについてのヒアリング
 - ・京大の各研究科を対象に実施
 - ・日常的なFDの実質的全学展開があること (学部を主体とする教育体制、研究体制維持のための教育という問題意識) があきらかになった。
- (7) 関西地区FD連絡協議会

- ・地域連携の必要性、組織化の目指す方向、組織化の必要条件について
- ・連絡協議会発足時からの経費のはなし

(8) 教育法の変化

- ・一方通行の従来の授業法から、高度情報社会での学習様式の変容について
- ・創造力や構想力の要請、個人主義化から、講義型授業形式は実施困難な時代
- ・学生が主体的に活動する「参加型授業」が求められている。
- ・意欲の低い学生の参加意欲を促す一方、臨床知の獲得や高度な創造性の育成が求められている。

(9) 参加型授業の類型事例紹介

- ・参加型授業の難しさと要求される教育力について議論

(10) 授業公開について

(あ) 体験の具体性・全体性

- ・大半の大学教員は「教えられたように教えて」きた。
- ・自己反省の体験は限定され貧しい
- ・授業参観の体験は具体的・全体的である
- ・言語化できない部分で得られる成果が大きい

(い) 相互肯定・相互受容のために

- ・授業公開はお互いが学びあうために行われる
- ・互いの非難や批判、自己弁明のためになされるのではない
- ・基本的には互いの営為の受容と肯定のためになされる

(う) 相互研修の共同体へ

- ・公開授業は教室の壁を崩す
- ・孤立した反省から反省の共同体へ
- ・FDの実現
- ・教育する教授団の生成